



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外

市政レポート

考察「富の分配の間違いによる歪み」

私たちの住んでいる時代は、物的には豊かな時代と言って差し支えないと思います。全員が満腹になるだけの食料を確保することができ、むしろ食品ロスが問題となるほどです。空調機器を正しく使うことができれば、暑さや寒さで命を落とすこともありません。未だ治すことのできない病気もあるものの、医療技術や医薬品の質の向上によって、50年・100年前と比較すれば命が脅かされるリスクは格段に低減されています。しかし、国内だけを見ても十分な栄養がとれていない人は現実に居ます。電気代や医療費を気にして熱中症になったり、「何でこんなになるまで放っておいたの!？」という事案も同様に存在します。こうした、物的な豊かさと、それらモノやサービスにアクセスできない人々が存在するという矛盾は、一体どこから生じてくるのでしょうか。

例えば、あなたの乗っていた船が難破し、無人島に打ち上げられたとします。全身ずぶ濡れで着替えもないので、風邪をひかない手立てを打たなければなりません。今晚寝られる場所を見つけなければなりませんし、食べるものや安全な水も全部自分で確保しなければなりません。最初の1ヶ月は、1日8時間の睡眠時間以外は全て、生活必需品を揃える行動に充てなければならぬかもしれません。16時間労働は過酷ですが、やらなければ飢えるか、凍えるか、獣に襲われるか、ともかく生命の維持ができませんのでやるしかありません。しかし、1ヶ月ほどで無人島生活に変化が現れます。たまたま見つけて寝床にしている洞窟から水源まで往復1時間かけ、最初は毎日50の水を汲んでいましたが、木を削って作ったより大きな器を手にしたことで、一度に100の水を汲むことが可能になりました。これで、水汲みは2日に1回でよくなりました。同様に、今までは一日分の食料になる魚を釣り上げるのに10時間かかっていましたが、釣り技術の向上や竿の改良によって半分の5時間で必要な魚を得ることが可能になりました。こうした調子で、全ての作業が半分の時間でできたり、倍の成果が得られるようになれば、1日に働く時間は8時間でよくなります。更に道具や技術が発展すれば、1日4時間労働にしたり、定期的に休みの日を作ることも可能になるかもしれません。

さて、この無人島の例えでは、技術や道具の進歩はそのまま生活を楽にすることに繋がっています。作業時間が短縮されれば自由な時間や休息の時間が増え、その恩恵を余すところなく享受することができました。もし、まかり間違っても「どこでもドア」でも発明されれば、水源にたどり着くまでに要していた1時間や、その他諸々の無人島内の移動時間も必要なくなり、ますます時間に余裕を持った生活が可能になります(島外脱出もできてしまいますが…)

しかし、私たちの住む社会で、今の社会の仕組みのまま「どこでもドア」が開発されたら、暮らしは便利になるどころか極めて悪化すると考えられます。瞬時に移動する事ができれば、自動車産業は壊滅します。同じく移動手段である、電車や飛行機、リニアも無用の長物です。ドアを通じてモノが運べるのであれば宅配業界も無くなり、道路や道路工事も恐らく必要なくなります。無人島で5lの水しか汲めない器が不要になったのと同じ様に、上位互換の登場でそれまで使われていたものは必要とされなくなります。それなのに、片や暮らしが豊かになったのに対し、もう一方では失業によって暮らしが破壊される矛盾はどこからきているのでしょうか？

それは、技術や道具の発展による恩恵を搾取する人物がいるかないかではないでしょうか。決して富が足りないからではありません。無人島の例では16時間だった1日の労働時間が8時間になり、その後も技術の進歩によって更に余裕のある生活に向かいます。究極的には、殆ど働かなくても生活できるところまで行きつくかもしれません。これに対し、我々の住む社会の仕組みはまるで違い、半分の時間で仕事ができるようになったとしても今度は倍の仕事を求められます。そして、倍の仕事をしたからといって、給料が倍になるわけでもありません。全ては、技術の進歩による恩恵を搾取する存在がこうした矛盾を招いているのです。即ち、冒頭にあげたような貧困は、富が足りないから発生しているのではなく、正しい富の分配がなされていないからこそ発生しているのです。そして、そうした搾取を前提とした社会の仕組みが改められない以上、仮にドラえもんの世界が実現したとしても貧困が無くなることはないでしょう。最優先で必要なのは、そうした社会の仕組みを改めることではないでしょうか。